

IV-52

伝説に現れる地域イメージに関する基礎的研究

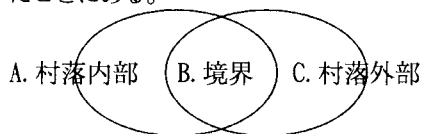
神戸大学工学部 正員 ○竹林 幹雄
 京都大学工学部 正員 佐佐木 綱
 (社)システム科学研究所 正員 東 徹
 京都大学大学院 学生員 矢野 誠吾

1. はじめに

過去から現在までを通して、住民が地域に対して有してきたイメージは、通時的に一貫すると考えることができる。換言すれば、地域に対するイメージは歴史的な連続性の上に積み重なってきたものとも言える。本研究では、以上のような歴史・民俗的に生成してきた地域に対するイメージを計画に表現することで、地域の個性化・個性的演出に寄与できると考えている。特に地域イメージを「住民心理上に生じる空間に対する共通の観念」という視点から捉え、伝説に現出する地域イメージの根幹をなす空間認識について把握することを目的とした。

2. 中心－周縁理論¹⁾

文化人類学者である山口昌男のいう文化の秩序概念は、混沌との対構造であり、秩序／混沌を対等かつ相互規定し合う概念として捉えたものである¹⁾。この秩序を生成する過程において人類の文化・社会は、あいまいなもの・異質なものを周縁を自己の外部に排除しようとする力動ベクトルを発動させ、その結果秩序ある中心を形成するという傾向を見せる。山口の中心－周縁理論の特徴は、境界を設定し境界を通じて混沌の相貌をかいま見せることによって、自分達の所属する中心の秩序を再確認し活性化させるという役割を境界に与えたことにある。



図－1 村落空間の心理的空間認知モデル

本研究では山口による「秩序」「境界」「混沌」の概念をふまえ、ムラ空間に生じる心理的把握についての全体集合を、相互の共通集合が空集合となる以下の3集合に分割した（図－1参照）。

A：村落内部（秩序）

B：境界

C：村落外部（混沌）

3. 分析対象および分析手法

(1) 分析対象

本研究では、滋賀県東北部に位置する伊香郡・東浅井郡・坂田郡・長浜市から構成される湖北地方において、当該地域の象徴である伊吹山に関する伝説と、村落を構成する重要な要素である水辺に関する伝説を対象として分析を行った。湖北地方の各市町村の教育委員会等が編纂した民話集に収録されている伝説1527編を母集団として分析対象伝説を抽出した。伊吹山に関する伝説は24編、水辺のそれは22編抽出された。

(2) 分析手法

複数の民話を分析対象とする場合に、人文諸科学分野には民話を構成する小さな単位に分割する手法がある。構成単位は要素・モチーフ等様々な名称で呼ばれ、分類の方法の確立や民話の起源を推定するといったことに適用された²⁾。

文化人類学者レヴィ・ストロースが主張した民話の構造分析³⁾は、民話を創作・伝承してきた人々が民話を用いて暗喩した内容を解明しようとしたものである。神話の構造分析を行うことにより、生／死のような2つの対立する概念によって世界を認識する図式と、この2項対立し互いに矛盾する概念が

次々とアナロジー的連鎖を経て解消される過程を示したものが民話であるとした。前述の山口による中心周縁理論は、このC. ヴァイストロスのいう2項対立に相当するものとして「中心／周縁」という2項的な領域概念を提示し、これから文化事象を説明しようとしたものである。

本研究では、文化人類学においてヴァイストロスが提示した構造分析の手法の援用をはかり、以下のような手順に従って伝説の構造分析を行った。

- ①抽出した伝説それぞれについて、「誰が、どうした」という伝説を構成する最小の構成単位に分解した。本研究ではこれを「伝説素」と呼ぶ。
- ②伝説素が共通する伝説を全体の中から選別し、これらを一括して、一つの伝説群とした。
- ③一つの伝説群にまとめられた伝説の伝説素を、縦方向には共通の特徴を持った伝説素が並び、横方向にそって伝説素を読んで行くと話の展開の順序に従う形式に表に配置した。
- ④この表より縦方向に1列に配置された伝説素に現れる対立する概念（2項対立）を抽出した。

4. 伝説の構造分析の結果

伊吹山に関する伝説は宗教起源／伊吹弥三郎に関する伝説群に分割される。さらに伊吹弥三郎に関する伝説群からは伊吹弥三郎の嫁取り伝説群と伊吹弥三郎の山運び・造山伝説群から形成されることが分かった。

ここでは「伊吹弥三郎の嫁取り」としてまとめられる伝説群を例にとって説明する。取り上げた伝説群は、「伊吹弥三郎の登場」「弥三郎の特徴」「弥三郎の開発行為」「娘の登場」「弥三郎の娘への求婚」「求婚の拒否」「弥三郎の退治話」「弥三郎の投石」「現代の名残」を共通の伝説素として有することがわかった。この伝説群では、前述の心理的空間に関する2項対立の概念として、「温和／凶暴」「建設的／破壊的」「女性／村人」が指摘される。「温和／凶暴」「建設的／破壊的」という2項対立はこの伝説群の主要な登場人物である伊吹弥三郎に関する性質およびその行動について表した伝説素から抽出されたもの

である。これらの2項対立は心理的空間における「A：村落内部／B＋C：境界と村落外部」の対立に対応するものであり、村の秩序に従うものであるか否かという基準を表したものである。次に「女性／村人」という2項対立は「娘」の属性について考察する⁴⁾ことにより抽出されたものである。この2項対立は心理的空間におけるB：境界の両義的な特質に対応したものである。この抽出された2項対立を伝説の話の展開に沿って検討する。両義的な特質を持つ娘に求婚し、これを拒否された弥三郎は「村落内部」に向かって大石を投げつける。このことにより弥三郎は「村落外部」に弁別されるものである。すなわち、ムラから望まれる伊吹山の属するテリトリーをこれらの伝説は、表現していることになる。最終的にムラの外に再定義される伊吹山は、村落活動が不可能な（ないしは禁止の）空間であることが示される。

5. おわりに

本研究では人文分野の伝説に関する分析手法を援用することで、心理的空間という視点から把握される伝説の有する意味について検討を加えた。そして伝説が情報伝達媒体の一種⁵⁾であることを考慮することから、伝説は心理的空間認知を規定する思考の過程を現していると考えられた。また、こういった傾向は水辺について口承された伝説群にも適合した。水辺と伊吹山などの山伝説を総合した湖北の空間認識については、機会を改めて検討したい。

本研究の今後の展開としては、地理的・歴史的資料による妥当性の検証および他の対象地域の伝説の分析による地域差の比較、差異体系による地域特性の把握・検討などが必要である。

【参考文献】

- 1) 山口昌男; 文化と両義性, 岩波書店, 1975.
- 2) V. プロップ; 昔話の形態学, 白馬書房, 1987.
- 3) C. ヴァイストロス; 構造人類学, みすず書房, 1972.
- 4) 小松和彦; 異人論, 青土社, 1989.
- 5) E. リーチ; 文化とコミュニケーション, 紀伊国屋書店書店, 1981.